

たけた

市議会だより

2012.2.1

No. 26

シリーズ
祭

祈りを込めて

彦山神社どんど焼

1月14日(土)、宮城地区炭竈にある彦山神社で「どんど焼き」が行われました。

お正月に使ったしめ縄や門松、お守りなどを燃やし、五穀豊穡、無病息災を祈願しました。



平成23年第4回定例会予算特別委員会報告

一般会計補正予算案(第6号)

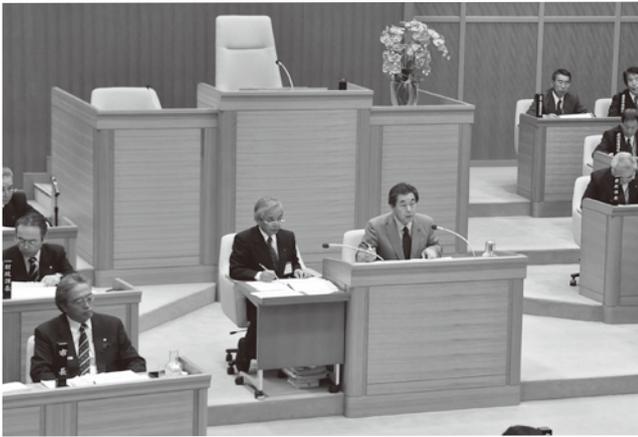
全会一致で原案を可決

予算特別委員会 委員長 阿部 雅彦

12月15日と22日の両日、竹田市議会第4回定例会の予算特別委員会が本会議場で開かれ、執行部から提案のあった補正予算案を慎重に審査した結果、原案を全会一致で可決した。今定例会に提案された補正額は、歳入歳出ともに1億4943万5千円の増額で、予算総額は190億9778万8千円となった。

主な内容は、総務費では、路線バス運行委託金235万円を増額、岡藩城下町400年祭プレ事業として楽曲「サンチャゴの鐘」CD製作委託料ほか550万円を新規計上。民生費では、緊急医療情報キット配備事業委託料200万円を新規計上。衛生費では、簡易水道事業特別会計繰出金110万円、資源ごみ選別・運搬処理委託料115万5千円を増額。農林水産業費では、あじさい加工所管理費として施設整備費等582万円、次世代を担う園芸産地整備事業1070万円を新規計上。商工費では、温泉療養保健給付事業の一部であるモニターツアー事業補助金

150万円、スカイパークあぢみ台の施設整備工事費328万3千円を増額。土木費では、市道維持費292万2千円、新設改良費281万円を増額。消防費では、消防庁舎建設に伴う用地購入費450万円を増額。教育費では、キリシタン礼拝堂周辺ほか用地購入費2440万2千円を増額した。



予算特別委員会

議会改革調査特別委員会報告

「議会基本条例制定作業部会」発足



議会改革調査特別委員長 伊藤 孝信

11月27日(日) 第18回特別委員会

去る10月に発生した、視察中の常任委員会委員の不適切な行動について、議会改革の根幹に関わる問題であることから協議を行いました。

その結果、今後は議会活動や議員活動の原則等について議論を重ね、二元代表制の一翼を担う市議会の責務等を明らかにした「議会基本条例」の制定に最優先で取り組むべきとの結論に達しました。なお、すでに決定している「市民との意見交換会」の試行については、双方の重要性に鑑み、並行して行うことを再確認いたしました。

12月9日(金) 第19回特別委員会

議会基本条例制定に向けた準備のあり方について検討を行った結果、条例の素案策定のため、少人数の作業部会を編成することとし、各会派から1名程度の人選を行うこととしました。また、議員全員による議会基本条例についての研修の必要性が指摘され、12月

12日の本会議終了後に「全国市議会議長会・第6回研究フォーラム青森」における課題討議「議会基本条例について」の録画映像を視聴いたしました。さらに、12月22日には、議会閉会后、大分市議会のご協力により、議会基本条例をはじめとする様々な議会改革の取組について研修を行いました。

12月15日(木) 第20回特別委員会

議会基本条例制定については、各会派から作業部会のメンバー4人の報告を受け、今後はこの作業部会を中心に素案づくりを進めていくこととなりました。また、並行して進めていくことになった「市民との意見交換会」につ

いては、議員を3班に編成し、竹田地域を東西南北に分けた4カ所と荻地域、久住地域、直入地域の合計7カ所で行うことに決定しました。なお、開催日については、今後4月20日の週を中心に調整していくことといたしました。

市民の皆様へ

議長 加藤 正義

「議会基本条例の制定」を最優先に

昨年10月の初旬に実施された当市議会、総務常任委員会の行政視察における不適切な行動につきまして、まずもって市民の皆様方をはじめ、関係者の皆様が多大なご迷惑をおかけいたしましたことを、市議会といたしまして深くお詫び申し上げます。

市民の皆様方の信託を受けた者として、また、常に、竹田市民全体のために行動すべき立場にある者として、全議員深く反省しているところであります。

今後は、一人ひとりの議員が、公人として、二元代表制の一翼を担う市議会の責務と、竹田市民から直接選挙された議員によって構成される竹田市議会という合議制機関の一員であることを、しっかりと自覚し、自らを戒め、再びこのような事を起こさぬよう、綱紀粛正に努めてまいります所存であります。

すでに議会改革調査特別委員会において、今春には「市民との意見交換会」の試行を決定しているところではありますが、今回の事案を踏まえ、具体的には、竹田市民との誓約の証ともいえるべき、市

民の幸福のための活動を大前提とした「議会基本条例」の制定に向けた取組を最優先して、早急に進めてまいります。私どもの活動は、常に、「市のために、市民のために」ということが大前提でなければなりません。

今後は、竹田市民の福祉の向上のために、議員一同襟を正し、市民の皆様方の信頼回復に向けた粉骨碎身の努力を重ねますことをお誓い申し上げます、お詫びと決意の表明いたします。



全議員起立した中、市民へのお詫びと決意を述べる加藤議長

議会基本条例制定 作業部会

新たな議会を目指して

座長 阿部 雅彦

議会基本条例は、市民の皆様と議員・議会との約束事であり、議会に関する基本的事項について定めた「議会運営の憲法」ともいえるべき条例です。この条例の制定により、市民の皆様にとって、より身近で開かれた議会、透明度や信頼度の高い議会への改革を進めるとともに、二元代表制の一翼をしっかりと担い、市民の信託に確実にこたえられる議会を目指します。条例の素案は、でき上がり次第、市民の皆様にご提示し、ご意見を頂戴して竹田独自のより良い議会基本条例に仕上げたいと思います。



作業部会メンバー
左から吉竹悟、阿部雅彦(座長)、佐田啓二、渡辺克己の各議員

頑張ります!



議員全員で「養護老人ホーム南山荘」を視察(12/12 本会議終了後)



足立大分市議会議長、仲道前議長の協力を得て議会基本条例について議員研修会を行う。(12/22 議会閉会后)



一 般 質 問

平成23年第4回定例会では、12月9日・12日の2日間に7名の議員が一般質問を行いました。その内容を要約してお知らせいたします。
 なお、原稿は議員本人が執筆しています。



吉竹 悟 議員

まちなか活性化について

吉竹 豊後竹田駅・駅前庭園・駅前通りは、アピール力がないと思う。再開発の検討をするべきではないか。故障中のカラクリ時計はどうするのか。商工観光課長 駅舎は老朽化も進んでいるが、現景観は城下町にマッチしている。都市計画マスタープラン作成では、関係団体・関係者と協議を行う。駅側とは様々な観光推進、連携事業を進める。駅前庭園も老朽化が進んでいる。観光振興では欠かせないポイントなので、イメージアップを考える。カラクリ時計は、平成9年に設置。電気系統が弱く、平成14年に落雷で故障した。修理代が約180万円必要なため、修理を断



竹田市の表玄関「豊後竹田駅」

念した。2度復活要望が出たが、現状のままである。「市街地活性化協議会」「城下町再生プロジェクト」と整合性を図り、関係者と協議をする。
 吉竹 まちなかの賑わいの復活が待たなしの状況である。居住者を増やす政策を取り入れてはどうか。市長の考えは。
 市長 「まちづくり待ったなし」の想いをしっかり聞いた。来年岡藩城下町400年祭を迎える時に、実タイムリーな話である。都市計画マスタープランを作成する時期にあつての最大課題である。エコミュージアム構想の心臓部に当たるエリアである。駅前の問題・カラクリ時計の問題を含めたトータルビジョンをしっかり議論しておくことが重要。駅前の空間は総合的なデザインが必要。全国区の優れたコーディネーターが組み立てる必要がある。総合まちづ

施設園芸等の振興について



岩屋 千利 議員



直入地域のネギハウス

くりセンター的な組織をもって、行政と市民が、国の政策にどう結び付けていくか、専門機関を入れながら、このエリアに力を注ぎたい。
 その他、職員について、指定管理施設の状況について質問した。

岩屋 集約型施設園芸等の振興策と、国や県における当該各種助成制度等の周知の方法は。
 農政課長 これまで市は野菜・花卉・果樹等収益性が高く期待が持てる産品について、集約型施設園芸と

して振興に力を注いできた。その結果、竹田市は西日本有数の生産基地となり、農業産出額で平成14年以降、連続して県内1位を維持している。今後も国・県の有利な事業等を活用し、産地拡大・人材の育成に努める。なお各種制度等の周知徹底は窓口での対応はもとより、営農座談会や生産部会等の機会を通して行う。近年では市民の皆さんがホームページで直接情報を得ることもできる。いづれにしても事業実施者の希望を最大限に考慮した対応に努める。

再生可能エネルギーの活用について

岩屋 大分県は「エネルギー政策日本一の先進県」を目指すとして行動を起こしているが、再生可能エネルギーに対する市の考え方と今後の対策は。

企画情報課長 国や県のエネルギー政策は、太陽光や風力・水力といった自然エネルギーの利用、促進を大きな政策課題として掲げており、竹田市にも水資源を始め、自然エネルギーとして有効で豊富な資源があり、国や県の動向等も見極めながら、企業誘致も含め、あらゆる可能性について研究をしていきたい。

畜産の現状と取組について

岩屋 近時の畜産経営は厳しい。対策としてキャトルセンターにおける農家負担の軽減策は。

畜産振興室長 飼料価格の高騰で日額600円に上がった。利用の低迷は畜産振興の妨げとなる。市の「地域雇用再生特別基金」を活用し、人件費の助成をすることで農協と協議中。何らかの方法で農家負担の軽減をしたい。



渡辺 克己 議員

子育て定住促進住宅について

渡辺 本年度城原・入田地区にそれぞれ2棟、計4棟建設されるが今後の計画については。

企画情報課長 本年度は実証実験事業とし、年齢・家族構成等を把握。さらに24年度2棟・25年度2棟を計画している。

渡辺 小学校の統廃合・複式学級の解消が目的である。「竹田市長期総合教育計画審議会」答申との整合は。企画情報課長 統廃合・複式学級解消のための積極的施策と考える。

渡辺 実証実験の結果、計画の拡大はあるのか。

企画情報課長 今後は戸別住宅もしくは集合住宅の建設も視野に増棟していくこともある。

ら、なぜ城原小・祖峰小校区に建設するのか。

企画情報課長 進出企業による就労の機会があること、地元の熱意と要望で決めた。

渡辺 募集要項は竹田市ホームページにあるが、市外への周知の方法は。企画情報課長 ふるさと回帰支援センターや県東京事務所・県大阪事務所にパンフレットを配布している。

渡辺 市外からの定住者への家族構成によっては最高で月に4万5千円の高額な家賃控除となるが、目的の複式学級解消になるのか。

企画情報課長 若者の定住促進の目的もある。若者定住による地域コミュニティの再生につながる。

渡辺 市外からの移住定住者に手厚い事業を、市内在住の若者を対象とした定住促進住宅としたらどうか。企画情報課長 市内向けには市営の住宅で一定の役割は果たしている。



建設途中の子育て定住促進住宅(城原地区)

市長 各種施策による立体的な効果に期待する。全国に話題を提供するイメージ戦略も大事なことである。



井 英昭 議員

庄内久住線バイパスについて

井 国道442号線バイパスの開通を受けて、県からの要請で県道庄内久住線バイパス検討委員会が設けられた。その検討結果はどうだったか。

久住支所長 検討委員会は地域の意見集約を図るために設置され、委員会は久住地域の自治会、商工会、学校・PTA、議員などで構成された。結果として、地域の振興と地域住民の通行の安全性を確保するためには、県道庄内久住線バイパス接続道路は必要である。ルート選定は、県土木事務所へ委ねる、という結論に至った。

井 バイパス接続道路建設のスケジュールはどうなるか。

久住支所長 県土木事務所から伺っている分を報告すると、平成24年度にルート選定、概算設計、事業計画書の策定、25年度にルート決定、用地交渉、実施設計書作成、26年度に工事発注見込みとなっている。



県道庄内久住線バイパスの接続道路は…(久住支所前)

井 早ければ26年度中に接続道路が完成するかもしれない。これからはまちづくりの視点で地元の人たちをバックアップしていくよう市役所にはお願いしたい。

久住支所長 商店街と久住支所の連動性をどう魅力的なものにするかが支所の活用とあわせて検討課題と考えている。地域審議会等の答申を踏まえて地域振興を図っていく。

財政について

井 今後、大きな財政支出がある事業にはどんなものがあるか。

財政課長 26年度までの公共施設整備計画書に記載されている分では、消防庁舎新築事業に約8億3千万円、消防無線デジタル化事業に約3億9千万円、図書館・関連施設整備事業に約10億円、岡城跡ガイダンス施設整備事業に3億3千万円などを計画している。



佐田 啓二 議員

岡藩城下町400年祭について

佐田 コンセプトは。

企画情報課長 「ひと・まち・心！歴史と文化でつむぐ岡の里」がテーマ。

佐田 メインイベントは。企画情報課長 企画1として、「400年の謎に迫るサンチャゴの鐘復元」。企画2は作曲家「船村徹」氏愛惜の名曲「サンチャゴの鐘」をCDで復活させ、竹田市をPRする。メインイベントは、9月28日から30日までの3日間で計画中。

佐田 盛り上がりに向けている賑わいの場の創出も必要では。

企画情報課長 今後、検討し詰める。竹田ならではの企画を展開しながら独自の情報媒体を連携し発信する。



岡藩初代藩主 中川秀成侯の亡くなった年“1612”の刻印がある「サンチャゴの鐘」

歴史的風致維持向上計画

佐田 これは、どんなものか。

文化財課長 文科省、農水省、国交省が管轄する「歴史まちづくり法」に基づく事業で、歴史的建造物の保存・整備、農用地区域内の開発行為など様々な支援が受けられる。平成23年度中に国の認定を受け、24年度から事業実施をしたい。

佐田 竹田市の計画は。

文化財課長 一、城と城下町。二、石と水と農業遺産。三、温泉と街道と文化的景観の3つの分野で行うが、初めは「城と城下町」から行う。具体的には「岡城跡公園活用検討委員会」で、総役所跡はガイダンスプラサルファを、植栽については、南面、近戸口、北の尾崎の伐採を実施し、「岡城真景図」に描かれている江戸時代の景観に戻すなど検討中。城下町については、伝統的建造物の保存修理、道路整備、無電線化を行うと共に建造物を活用した人の息づかいが聞こえる街並みの再生をめざす。



期待される岡城会館跡地の活用

佐田 その他、地域審議会答申をどう活かすか質して質問を終えた。



阿部 雅彦 議員

教育行政の取組について

阿部 教育行政に関する点検・報告書の取組は。

教育総務課長 教育行政の課題や方向性を明らかにし、これらを議会や市民に報告することで、説明責任を果たし、信頼される行政を目指している。

阿部 学校教育における学力向上と教職員研修事業の取組の状況は。また、学力のとらえ方と学校教育のあり方の今後についてどう考えるのか。学校教育課長 本年度4月の調査で小学校は、国語は県平均を上回り、算数も県の伸び率より大きい。中学校は県平均を大きく上回っている。今後の課題と展開方針は、下位層の学力を引き上げるために更なる授業改善や指導方法の改善に取り組み、竹田市の教職員が学び合う研究会を組織していく。学力については行き過ぎた競争やランク付けは弊害が予想されるが、生きる力として人間関係力を培う上では他者と自分の位置を確認しながら、子ども達の自己分析や意欲・関心につなげたい。

阿部 学校再編と学校統廃合を防ぐ



協調学習(新しい学びの授業法)の様子

取組の関連は。

教育総務課長 学校再編という基本的な計画を持ちつつ、市外からの定住人口増加策や農村回帰等を目的とした子育て定住促進住宅の建設をはじめとする首藤市政の積極的な政策に保護者と共に期待をし、サポートできる場所はサポートしていく。

子育て定住促進住宅とその条例の取組について

阿部 子育て世代で新規就農者の支援策の提案と情報発信を。

農政課長 県立農業大学校との連携による就農誘致や農村回帰推進室等と連携した移住の支援等に努めていきたい。

阿部 その他ゆうあいみーていんぐの復活・高齢者大学や声楽コンクールについて質問した。



渡辺 龍太郎 議員

図書館建設について

渡辺 図書館建設の進捗が遅れているようだ。今後どのようにスケジュールを立てていくのか。

企画情報課長 城下町再生プロジェクトの方向性を固めることが今後必要。具体的には、平成24年2月5日に「城下町の青写真を探る」のシンポジウムで方針とたたき台を示す。

このことによって城下町再生の輪郭がつかめる。図書館や関連施設の機能、場所を定め、平成24年度に基本構想・計画を作成、平成25年度に、本体である実施計画を策定するスケジュールで事業推進を図る。

岡城の周辺整備について



公有化が進む岡城(下原御門周辺)

渡辺 岡城整備は、公有化が必要と思うが、進捗状況はどうなっているか。
文化財課長 最終的に岡城跡の国指定総面積を80万㎡と考えている。現在その内の50万㎡が国指定。公有化はその内の3割程度の16万㎡となっている。

渡辺 岡城は、竹田市民のシンボル

産業建設常任委員会研修報告

委員長 日小田 秀之

(研修参加者) 岩屋千利、渡辺克己、徳永信二、中村憲史、伊藤孝信、足達寛康、日小田秀之「視察研修先」鳥取県米子市ほか

観光振興のための県境を越えた広域連携について視察

中海・宍道湖・大山を中心とした動き

「県境を意識しない圏域での一体感のある観光連携」をテーマに平成17年に「中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会」が発足。構成員は、商工会議所、商工会、観光協会、経済同友会、各市町村。また、この圏域は潜在力のある地域ということ、国土交通省「地域いきいき

観光まちづくり2008」にも取り上げられている。平成20年には法定の観光圏協議会を立ち上げ、観光圏全体の整備計画を策定し、観光庁から「山陰文化観光圏」の認定を受けている。この観光圏は鳥取県と島根県が関わっていることもあり、世界遺産となった鳥取県大田市石見銀山

だ。色々な所で岡城が荒れている話を聞く。公有化を促進し、古木化した桜や松の植樹、歩行者用の道路整備等、一体的に整備を図ってはどうか。文化財課長 平成2年日本桜名所百選に選定されたが、ソメイヨシノも経年とともに古木化している。樹勢回復と適切な管理作業により、再生

から三朝市まで23市町村が含まれる広範なものとなっている。自然、神秘性、観光、歴史文化、癒し、スポーツ、食など多様性のある「神々のふるさとへの旅」、「御縁で結ばれる感動の旅」を一体的なイメージとして圏域全体での潜在型観光を目指した積極的な取組がなされている。

中海市長会と中海4市観光協会会議

平成19年に中海沿岸4市(米子市、堺港市、松江市、安来市)の市長で構成する中海市長会を結成。翌20年には中海4市観光協会会議が発足。まず「できることから取り組む」を合言葉に中海圏域が一体的に発展していくための指針となる「中海圏域振興ビジョン」を策定するとともに国が進めてい

ができる延命処置をしながら後継木を育て、江戸時代末の景観に戻していく。岡城跡公開活用検討委員会において、岡城全体の景観整備及び高齢者等の登城手段の対策についても協議をする。史跡内散策道路の整備にも重点を置いていく。

る「定住自立圏構想」にも圏域が丸となって取り組んでいる。今回の米子市での研修テーマ「県境を越えた観光の広域連携」の実践過程でもこの両組織が大きく寄与していることを伺い知ることができた。なお、このほかに、農業への企業参入と6次産業化の取組(鳥根県江津市)とまちじゅう博物館構想を活用した観光振興(山口県萩市)について研修した。



米子市役所前にて

平成23年 第3回臨時会 (平成23年11月28日)

議案等の審議結果

議案第100号	平成23年度竹田市一般会計補正予算(第5号)について	可	決
---------	----------------------------	---	---

平成23年 第4回定例会 (平成23年12月6日~22日)

議案・請願・意見書等の議決結果

議案第101号	平成23年度竹田市一般会計補正予算(第6号)について	可	決
議案第102号	平成23年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第2号)について	可	決
議案第103号	平成23年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)について	可	決
議案第104号	平成23年度竹田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について	可	決
議案第105号	平成23年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第2号)について	可	決
議案第106号	平成23年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)について	可	決
議案第107号	平成23年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)について	可	決
議案第108号	平成23年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計補正予算(第2号)について	可	決
議案第109号	平成23年度竹田市水道事業会計補正予算(第2号)について	可	決
議案第110号	竹田市職員の給与に関する条例等の一部改正について	可	決
議案第111号	竹田市企業の育成及び誘致促進に関する条例の一部改正について	可	決
議案第112号	竹田市子育て定住促進住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可	決
議案第113号	竹田市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正について	可	決
請願第9号	350万人のウイルス性肝炎患者の救済に関する意見書提出に関する請願	採	択
請願第10号	国営大野川上流農業水利事業に関する請願	採	択
請願第11号	郵政改革法案の早期成立に関する意見書の提出を求める請願	採	択
意見書案第5号	350万人のウイルス性肝炎患者の救済に関する意見書	可	決
意見書案第6号	国営大野川上流土地改良事業に関する意見書	可	決
意見書案第7号	郵政改革法案の速やかな成立を求める意見書	可	決

市議会 ホームページ

本会議の会議録や議会の日程、質問項目、議会のしくみと役割など様々な情報を掲載しています。



竹田市議会 検索 <http://www.city.taketa.oita.jp/gikai/>

傍聴のご案内

本会議は一般に公開されています。どなたでも傍聴することができます。市民の皆さんが選んだ議員の活動や市政の動きを知るためにも、ぜひ傍聴にお越しください。 ※次回定例会は3月上旬開会予定です。

本会議を中継しています

定例会初日の提案理由の説明と、一般質問及び代表質問をケーブルテレビで中継しています。

詳細は **議会事務局** までお問い合わせください。 ☎63-4813

委員会構成が変わりました

- ◎総務常任委員会 副委員長 吉竹 悟
- ◎議会改革調査特別委員会 委員 井 英昭

市議会だより 編集委員会の新メンバー

委員長	岩屋 千利
副委員長	阿部 雅彦
委員	佐田 啓二
委員	日小田 秀之
委員	森 哲秀
委員	吉竹 悟
委員	和田 幸生
委員	加藤 正義

あとがき

ある方から「親父の小言」という巻物の写しを戴いた。その中の幾つかの小言を紹介します。「人には腹を立てるな」「人には馬鹿にされていろ」「子の言うことは八、九きくな」「初心は忘れるな」「働いて儲けて使へ」「泣きことは言うな」「恩は遠くから返せ」「義理は欠かさな」等々で38首、目から鱗の感、私は3人の子とその連れ合いで、合わせて6人の親父、面と向かってこんな小言が言える？否、言えない。多少面はゆるいが子どもたちが目に付くところに貼ることはできる。厳寒の朝、くれぐれも御自愛ください。(編集委員長 岩屋千利)